

## 【受験生へ】小論文入試への取り組み③

### スキーマ ～ 構造化、一般化された知識の枠組み ～

国語科主任 八木

小論文の参考書を開くと、「何を書くか（ネタ）」と「どう書くか（ワザ）」では、多くは後者に重点が置かれた内容になっています。料理で例えれば、前者は食材、後者はレシピ（料理の材料や調理法を記したもの）です。ということは、よい食材なくして、おいしい料理はできないわけですから、むしろ「何を書く」かが、もっと重要視されてもいいはず

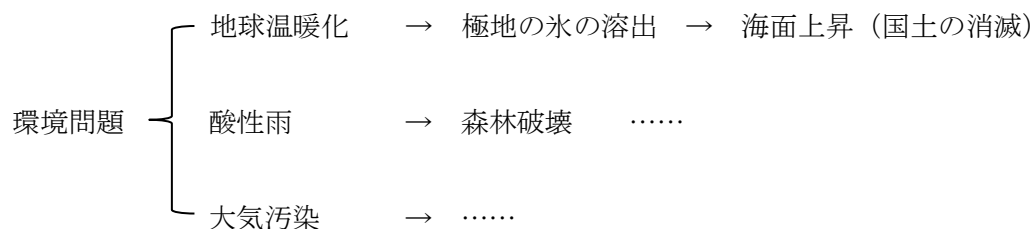
です。  
スキーマとは、「構造化、一般化された知識の枠組み」を表します。小論文を書くとき、私たちは出題されたテーマに関して、すでに持っている知識の枠組みを用いて、制限字数に合わせ、知識を再構成して文章化をしているのです。

もう少し、身近な例で説明すると「スキーマ」とは、インターネット上の記事やサイトの整理に使用されるカテゴリー（同じ性質のものが属する分類）のようなものです。

教育機関 > 学習塾 > 城北スクール > 高等部（B e E X）

人間の頭の中はこのような階層構造（上位・より広範囲で抽象的なもの → 下位・より狭い範囲の具体的なもの）になっています。私たちは文章を書くとき、そこに提示されているテーマと、頭の中にある知識の蓄積からなるスキーマとを結び付け、文章を展開しようとしています。私たちの頭は知識の整理ダンスで、必要に応じてテーマと関連する知識を引き出しから取り出して思考しながら文章を記述しているのです。

「環境問題」というテーマであれば、



というスキーマがすぐ想起できれば、文章展開に困ることはありません。

スキーマの量と質が、小論文の出来を左右するという事は、これでわかっていただけたでしょう。様々な機会を通じてスキーマの習得に努めましょう。